



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

人はなぜ戦争をするのか

校長 永浜 裕之

人類は世界大戦の惨禍を経て、世界平和実現のために国際連盟（League of Nations）、国際連合（United Nations）を作りました。第一次世界大戦後の国際連盟は提唱国の米国が参加せず、植民地帝国と呼ばれていた英仏日伊が常任理事国となり、日伊の脱退もあり短命に終わりました。第二次世界大戦後の国際連合は戦勝国が常任理事国で十分に機能しているとは言い難い現状です。世界平和は訪れず戦争はなくなっていません。

「**人類の壮大な実験**」とは、EU各地でよく耳にするフレーズで、複数の国家を一つに統合したら戦争はなくなるのか、経済は発展するのか、民主主義は機能するのか、今も続く実験の場がEUであると言われます。

第一次世界大戦と第二次世界大戦に挟まれた1932年、国際連盟はアルベルト・アインシュタイン（1879-1955）に、「**今の文明の中で最も大切だと思われる事柄を取り上げ、一番意見を交わしたい相手と書簡を交換して欲しい**」と依頼しました。アインシュタインは、「人はなぜ戦争をするのか」という問いを立て、対話の相手にジークムント・フロイト（1856-1939）を選びます。アインシュタインは、国家間の戦いの根底には人間の心の問題があるのではないかと考え、そのために心理学者であるフロイトを対話の相手に選んだと思われます。

20世紀は**アインシュタインの相対性理論**と、**フロイトの深層心理学に基づく精神分析学**が大きな影響を持った時代であり、第一次世界大戦を経た時点で、二人の優れた学者が戦争について語り、「**どのようにしたら人類が戦争をなくしうるか**」という問いに対する答えを模索する往復書簡は、戦争を止めることができていない人間という存在を考える上で興味深いものがあります。

アインシュタインが考えを提示し、フロイトも同意した戦争を阻止する方法、それは**国際的な機関が存在し、その機関が機能すること**でした。しかし、現在のロシアとウクライナ（+いわゆる西側諸国）の戦争、パレスチナのテロとイスラエルの報復としての大殺戮を見ても、国際的な機関である国連が有効に機能していないことは明白です。

フロイトは、国際連盟が戦争を防げない理由を、「**戦争を抑止する唯一の方法は、加盟国が主権の一部を放棄し、国際機関に権力を譲り渡すこと。しかし、それは不可能である。**」と指摘しています。

二人の言葉が交わされてから90年以上が経つ現在、国際連合は、第二次世界大戦で勝利した側の5ヵ国が常任理事国という権力のある地位を占め、様々な決定に対して拒否権を持ちます。そうした国々が、自分たちの利益に反して主権の一部を放棄することはないし、機関の決定を阻止する権力さえ持っています。

アインシュタインは、「人間は根源的に、憎悪に駆られ、相手を絶滅させようとする欲求」が潜んでいるのではないかと考え、フロイトに真偽を問いかけます。フロイトはアインシュタインに賛同し、人間には「破壊し殺害しようとする欲動」があると答えます。その上で反対の欲動、「保持し統一しようとする欲動」の存在にも触れます。二つの相反する欲動は、別の言葉で言えば「愛（エロス）」と「憎しみ」で、フロイトはそれらが単独で存在するわけではなく相互に関連するものであり、一方が善でもう一方が悪と簡単には決められないという点を強調します。

こうした認識に基づきフロイトは、人間には「生への欲動」と「死の欲動」があるとします。「死の欲動」という概念は、フロイトが戦争で心的外傷を負った兵士たちの治療の過程で発見したものです。生命体は自己にとって異質なものを外部へと排除して自分を守るといった動きをしますが、その動きが外部の対象に向かう時、つまり、「死の欲動」が他者に対する攻撃となって具現化される時があります。その考え方に基づくと、攻撃は自己防衛ということになります。

こうした考察を経てフロイトは、「人間から攻撃的な性質を取り除くことなど、できそうにもない！」と結論づけました。人間の本性からして戦争を止めることはできない。それが二人の学者の対話から導かれた結論でした。

しかしフロイトは、文化が備える力を指摘します。「**心理学的な側面から眺めた場合、文化が生み出すもっとも顕著な現象は二つです。一つは、知性を高めること。力が増した知性は欲動をコントロールしはじめます。二つ目は、攻撃本能を内に向けること。好都合な面も危険な面も含め、攻撃欲動が内に向かっていくのです。文化の発展が人間にもたらしたこうした心のあり方。これほど、戦争というものと対立するものは他にありません。**」。フロイトは、文化の発達戦争抑止につながると指摘しています。生徒の皆さんはどう考えますか？

第57回 全国高等学校定時制通信制卓球大会東京都予選 高体連定時制通信制卓球部春季大会 男子団体 「優勝」
団体メンバー

普通科1部1組（F11） 中山 詠太 さん
普通科2部5組（F25） 佐川 新大 さん
情報科2部3組（J23） 泉山 航佑 さん



第57回 全国高等学校定時制通信制卓球大会東京都予選 高体連定時制通信制卓球部春季大会 男子個人

普通科1部1組（F11） 中山 詠太 さん 第2位
普通科3部2組（F32） 大関 新 さん 第3位
普通科2部5組（F25） 佐川 新大 さん 第5位
情報科2部3組（J23） 泉山 航佑 さん 第8位

個人戦は、上位8名が全国大会に出場します。今年はうち4名が新宿山吹高校でした。
なお、全国大会は、7/23(火)～25(木) 駒沢オリンピック公園 屋内球技場で実施予定です。
ご声援をよろしくお願いいたします。

「現場対話型スタートアップ協働プロジェクト」始動

東京都では、「スタートアップ・国際金融都市戦略室 イノベーション推進部 スタートアップ推進課」が中心となり、「現場対話型スタートアップ協働プロジェクト」を実施しています。これは、都政現場における課題に対し、優れたスキルや技術を有するスタートアップ企業との対話を通じて、スタートアップ企業の知恵と、現場の力を協働させて課題を解決するプロジェクトです。

今年度、教育庁都立学校教育部と本校通信制課程が協働し、「通信制の生徒の自学・自習の支援や学習管理ツールなどを導入し、生徒個々人に寄り添った学習環境を充実させる」取組が採択されました。

今後、スタートアップ企業と協力し、以下3件の取組を行っていきます。

1 「自学・自習を助ける『学習ツール』の開発」

生徒は、基本的に教科書と学習書で自学・自習していますが、学習の躓きを解決し、生徒の学びを補佐するAI等の機能を開発していきます。

2 「レポートの取組等に課題を抱える生徒を適切に把握するツールの開発」

レポート添削や、面接指導を効果的・効率的に実施するため、生徒一人一人の課題を把握し、個に応じた指導を全員に即時に行えるツールを開発していきます。

3 「通信制課程におけるデジタル人材育成プログラムの開発」

デジタルに関心のある生徒が多数在籍しており、通信制課程におけるデジタル人材育成に向けた教育プログラムを構築していきます。

教育庁 都立学校教育部

通信制の生徒の自学・自習の支援や学習管理ツールなどを導入し、生徒
個々人に寄り添った学習環境を充実させたい！

対話実施日時：8月下旬実施予定

募集状況： 募集開始前 （2024年7月10日（水）募集開始予定）

募集開始前
COMING SOON

課題テーマ詳細

対話イベント詳細
COMING SOON

定時制課程 学校行事予定

7月12日（金）進路ガイダンス
15日（月）海の日
16日（火）保護者会・講演会
17日（水）個別面談
18日（木）個別面談
19日（金）全校集会、球技大会
21日（日）学校見学会、夏季休業日（始）

通信制課程 学校行事予定

7月6日（土）スクーリング1－10
13日（土）スクーリング1－11
20日（土）スクーリング1－12
21日（日）夏季休業日（始）
23日（火）Web学習コース夏季集中スクーリング（始）
～
31日（水）Web学習コース夏季集中スクーリング（終）